

第155号 / 静岡県

# 消防学校 ニュース



令和6年11月号

## 救助科 (第41期)

～ 多様化する災害に立ち向う～

10月1日(火)から29日(火)までの約1か月間、救助科を実施し、県内16消防本部(局)から43人が入校しました。

救助隊員として救助業務に関する高度な専門知識と技能・技術を備え、多様化した災害救助事案の対応能力強化に重点をおき、「安全・確実・迅速」を念頭に安全管理を徹底した活動ができることを目標に、県内外の消防本部(局)の救助隊員に座学や訓練指導に御尽力をいただいたほか、民間企業・NPO法人等の協力を得ながら、メリハリある密度の濃い教育訓練を実施しました。

### 通常点検



### 車両破壊救助訓練 (廃車車両を利用した実践的訓練) 講師：帝商株式会社



実火災体験型訓練



安全管理Ⅱ「CRM研修」講師：島野雅男（横浜消防）



救助人材育成 講師：早川亮（つくば消防）



救助人材育成「ダンボールハウスを利用した火災出場訓練」



火災救助Ⅰ「緊急時対応訓練」講師：富士市消防本部



火災救助Ⅱ「屋内進入・検索救助訓練」講師：磐田市消防本部

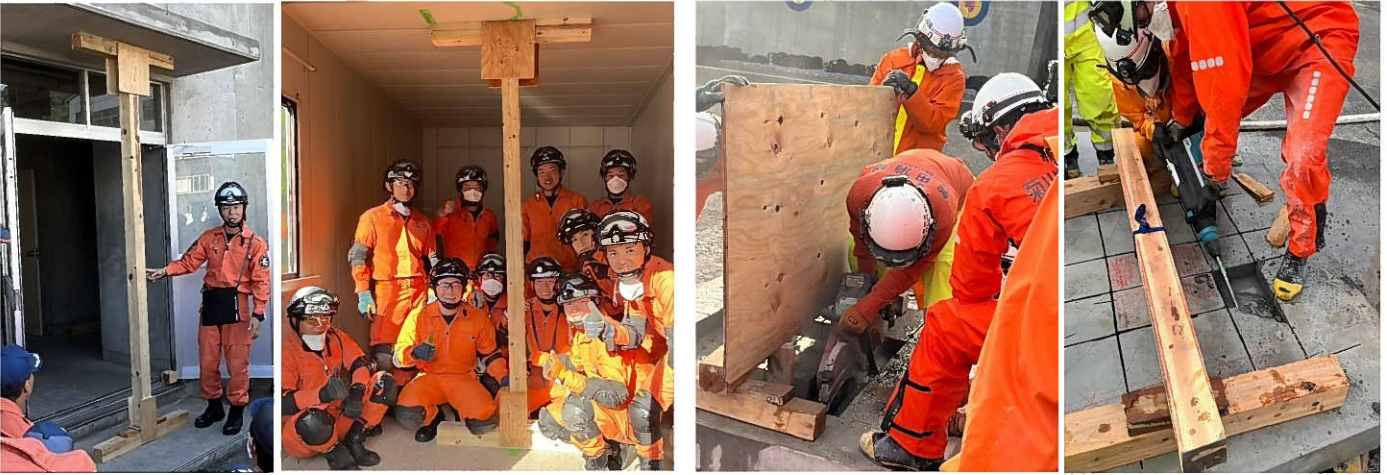


火災救助Ⅲ 校外研修「強制進入技術」講師：FIRE CFT



都市型検索救助「ショアリング」講師：静岡市消防局

都市型検索救助「ブリーチング」講師：浜松市消防局

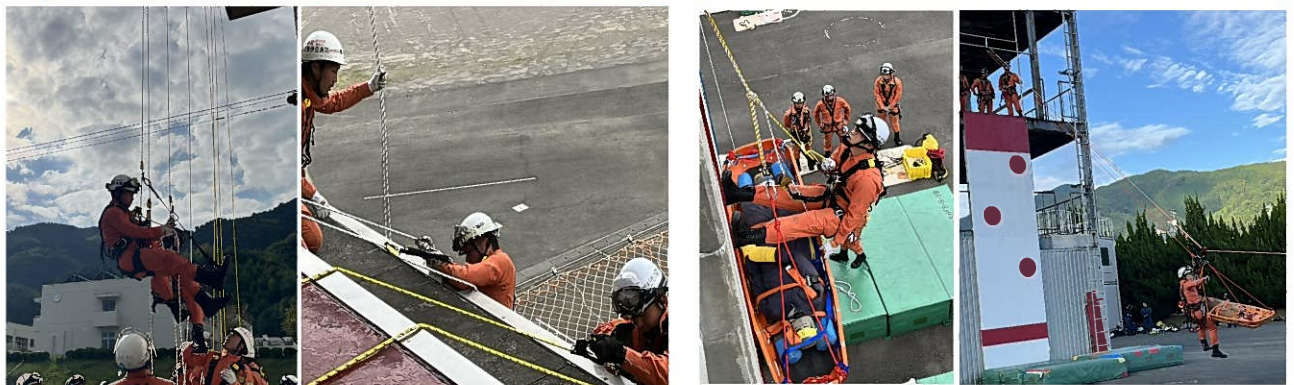


都市型検索救助 校外研修「CSR」(藤枝消防署)



消防ロープレスキューⅠ講師：駿東伊豆消防本部

消防ロープレスキューⅡ講師：富士山南東消防本部



都市型検索救助「ムービング・クリッピング」講師：静岡市消防局



土砂災害対応救助「チェーンソー倒木伐採」



「震災想定訓練」(災害救助犬静岡・菊川消防)



土砂災害対応救助「トレンチレスキュー・埋没」講師：静岡市消防局



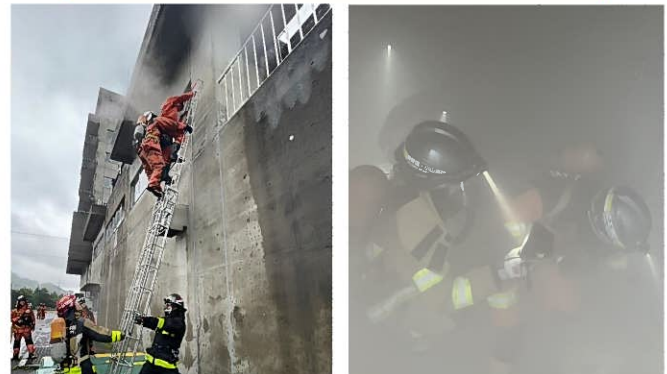
## 救助科・初級幹部科合同訓練

**大雨の中での合同訓練 総勢61人 他隊との連携・情報共有!!**

多数傷病者対応訓練 (交通事故)



火災対応訓練 (中高層建物火災)



### (担当教官コメント)

救助科第41期では、目的を2つお願いしました。1つは、チームビルディングの構築、一期一会の出会いを大切に、1か月間で最高のONE TEAMを創ること。もう1つは、多くの「気づき」を得ることです。総代、副総代、各委員長、学生の強い意志と協力はもちろんのこと、県内外から様々な技術や知識を教授いただいた講師の方々に感化され、上記2つの目的が達成されたかと思えます。

しかし、これで終わりではありません。これからの救助隊員そして消防職員の人材育成を担うのは、今後の皆さんの行動次第です。この期間で得た財産を己だけのものにせず、必ずアウトプットして組織に還元していきましょう。

訓練に終わりなし！皆さんの御活躍を期待しています。

4 1 期  
救 助 科  
教務課主査 水野 清人 (磐田市消防本部から派遣)

# 消防職員 幹部教育 上級幹部科(第23期)

10月7日(月)から9日(水)までの3日間、上級幹部科に県内消防本部から11人が入校しました。近年、自然災害の激甚化や頻発化、感染症対策など消防を取り巻く環境が多様化する一方で、定年引上げに伴う消防力の維持や消防本部の広域化などの多くの課題に対し、組織として効果的な施策を推進していく必要があります。本教育訓練では、管理職の役割、人事管理(ハラスメント対策、リーダー論)、業務管理(消防行政、訴訟問題、報道対応)などの講義のほか、事例研究では各所属の課題解決に向けた積極的な意見交換を行いました。



## (担当教官コメント)

本教育訓練では、組織運営に主眼を置いてカリキュラムを組ませていただきました。各所属の管理職として多くの課題に直面されていると思いますが、今回の講義や第23期の絆が課題解決の一助になれば嬉しく思います。

教務課主査 高村 勇一郎 (県職員)

# 消防職員 幹部教育 初級幹部科(第26期)

10月10日(木)から24日(木)までの10日間、県内12消防本部(局)から組織の中核を担う18人が本校へ入校しました。

幹部職員の責務を学ぶとともに、災害現場での部隊管理や現場指揮といった災害対応力の強化を目標に、各種座学・濃煙熱気実火災訓練・指揮シミュレーション訓練など多岐にわたる教育訓練を実施しました。



## (担当教官コメント)

組織において上司を補佐する一方で、部下を指導する中堅管理職員として、消防全般に関する理解だけでなく、実際の業務や訓練に反映できる知識・手法の習得を目指しました。

特に、現場指揮という教科目では、座学による指揮理論と数多くのシミュレーション訓練を経た後に救助科との合同訓練を行いました。入校生の皆さんは終日に渡るシミュレーション訓練にもかかわらず、集中力を切らすことなく全力で臨み、実用に足る指揮技術を身につけたと思います。

この教育課程での学びや気づき、そして同期生との繋がりを各所属での業務に活かしていただければ幸いです。

教務課主任 高橋 謙一 (県職員)

# 消防大学校レポート

(救急科 第86期)



## (答辞)

本日、かくも厳肅な中、消防大学校救急科第八十六期、四十八名の卒業式を挙げていただきますことを学生一同心から感謝申し上げます。私たち四十八名は期待と不安をいただき、全国からこの消防大学校に集まりました。

入校後は、幹部として備えるべき高度な各分野の講義、そして救急業務の指導者として必要な技能管理などに真剣に取り組む、幅広い知識を習得してまいりました。同期の仲間と多くの時間を共有することにより親交を深め、生涯忘れることのない有意義な日々を送ることができました。

総代として、時に悩みながらもここまで走り、この日をこうして迎えることができたのは、副総代が全力で私の背中を押してくださり前へ進むことができたからです。そして多くの先輩方、仲間が温かいお言葉をかけてくださり、全力で協力をしていただいたからです。消防は個ではない隊である、この言葉は私自身が教官として教壇に立ち、何度も何度も初任科学生に伝えてきた言葉です。学生であった今日まで、改めてこの『消防精神』を感じる事ができました。

このような気持ちを感じることができたのも、ひとえに講師の先生方や大学教職員の皆様、そして救急科第八十六期の担当教官方からの温かいご指導、ご支援があつてのことです。深く感謝申し上げます。

我が国では、毎年のように災害が頻発しています。このような状況の中、多くの国民から消防・防災の取り組みに強い関心が寄せられており、消防に寄せられる期待も益々高まっております。私たちは、この消防大学校で得た知識・技術そしてこの絆で、待ち受ける困難な課題に互いに協力し合い、住民の方々が安心して暮らせる社会作りに全力で邁進いたします。

結びに、消防大学校長を始め教職員の皆様におかれましては、今後とも全国の消防職員に対するご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様の益々のご健勝とご多幸俾せて消防大学校の一層の発展を心からご祈念申し上げ答辞といたします。

令和六年十月四日

消防大学校 救急科第八十六期

総代 山下 大輔

教務課主査 山下 大輔 (駿東伊豆消防本部から派遣)

## 三沢校長から一言

今年もあと1か月、年内の訓練は火災調査科と女性消防吏員講習、加えて消防団が2つの計4つを残すのみとなりました。今日は代休や年休で7人が不在で校内は閑散としています。昨日は消防団警防科の訓練があり、県内から60人余の団員が参加しました。入校のあいさつでも伝えましたが、年末の忙しい中、休みを丸々1日潰して訓練に参加、頭が下がります。これから夜警が始まる団もあると思いますが、寒い中、体調に注意してください。

先週修了した消防職員警防科の訓練には、今年も台湾から研修生4人が参加しました（去年は救助科に2人参加）。真剣に訓練に取り組み、夜はボウリング大会や飲み会で職員と親交を深めました。全員、機会があればまた参加したいとのこと。またの来日をお待ちしています。

台湾といえば、野球の国際大会プレミア12で日本に勝って優勝しました。「井端辞めろ」がトレンド入りし、井端監督も「すべて自分の責任」と語っていると報じられていますが、擁護する声も多いようです。WBCよりも格下の大会とみられているため、メジャーリーガーは参加せず、村上、岡本の左右大砲もケガで辞退、最後は台湾の一発に屈しましたが、がんばったとは思っています。中でも注目していたのは駿河総合高校出身の紅林内野手。起用法からして、まだまだ源田内野手の方が上に位置づけられているように感じますが、打てる大型ショートとして、今後も注目していきたいと思っています。落合博満氏が「守備の上手い選手はだれか？」と聞かれ、「大橋 譲」と即答したという阪急黄金期のショートストップを思い出させる強肩と守備範囲を誇ります。ただ、大橋は打てなかった。紅林には器用な右打ちに加え、思い切り引っ張って一発もあります。次の国際大会にも代表に呼ばれるよう応援しています。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町1-577-1  
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索